

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成23年11月10日(2011.11.10)

【公開番号】特開2010-22015(P2010-22015A)

【公開日】平成22年1月28日(2010.1.28)

【年通号数】公開・登録公報2010-004

【出願番号】特願2009-198456(P2009-198456)

【国際特許分類】

H 04 W 52/02 (2009.01)

H 04 M 1/73 (2006.01)

【F I】

H 04 Q 7/00 4 2 3

H 04 M 1/73

【手続補正書】

【提出日】平成23年9月28日(2011.9.28)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

無線デバイスで使用するための方法であって、

前記無線デバイスが、メッセージリストを受信するために所定の時間間隔中にスリープモードからウェイクアップするような無線ネットワークに同期すること、

複数の宛先識別子および複数のメッセージポインタを含むメッセージリストを受信することであって、

前記複数のメッセージポインタの各々は、前記複数の宛先識別子からの宛先識別子と関連し、

前記複数のメッセージポインタの各々は、メッセージがいつ受信可能になるかを示し、

前記複数のメッセージポインタの各々は、異なるメッセージを指し示す、

こと、および、

前記複数の宛先識別子の1つが前記無線デバイスに対応するという決定に応答して、前記無線デバイスに対応する前記宛先識別子に関連づけられたメッセージポインタにより指示されるメッセージを受信すること

を含むことを特徴とする方法。

【請求項2】

前記メッセージリストはさらに、前記メッセージリスト中の前記宛先識別子のカウントを含むことを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記メッセージリストはさらに、リストターミネータを含むことを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項4】

次の時間間隔までスリープモードに戻ることをさらに含むことを特徴とする請求項1に記載の方法。

【請求項5】

無線デバイスであって、

メッセージリストを分析するように構成されているプロセッサであって、前記メッセージリストは、複数の宛先識別子および複数のメッセージポインタを含み、前記複数の宛先識別子の各々は、前記複数の宛先識別子からの宛先識別子と関連し、前記複数のメッセージポインタの各々は、メッセージがいつ受信可能になるかを示し、前記複数のメッセージポインタの各々は、異なるメッセージを指示する、プロセッサと、

前記複数の宛先識別子の一つが前記無線デバイスに対応するという決定に応答して、前記無線デバイスに対応する前記宛先識別子と関連づけられたメッセージポインタにより指示されるメッセージを受信するように構成されている受信機とを含むことを特徴とする無線デバイス。

【請求項 6】

前記プロセッサはさらに、次の時間間隔まで前記無線デバイスをスリープ状態に戻すように構成されていることを特徴とする請求項 5 に記載の無線デバイス。

【請求項 7】

前記複数のメッセージポインタの各々はさらに、周波数情報を含むことを特徴とする請求項 5 に記載の無線デバイス。

【請求項 8】

無線デバイスで使用するための方法であって、

無線インターフェースを介して、メッセージリストを受信することであって、前記メッセージリストは、複数の宛先識別子および複数のメッセージポインタを含み、各メッセージポインタは、前記複数の宛先識別子からの宛先識別子と関連づけられ、各メッセージポインタは、メッセージがいつ受信することになるかを示し、前記複数のメッセージポインタの各々は、異なるメッセージを指示する、こと、および

前記宛先識別子の一つが前記無線デバイスに対応するという決定に応答して、前記無線デバイスに対応する前記宛先識別子と関連づけられた前記メッセージポインタにより指示されるメッセージを受信することを含むことを特徴とする方法。

【請求項 9】

各メッセージポインタは、メッセージが受信可能になるタイムスロットを示すことを特徴とする請求項 8 に記載の方法。

【請求項 10】

前記メッセージリストはさらに、前記メッセージ中の宛先識別子のカウントを含むことを特徴とする請求項 8 に記載の方法。

【請求項 11】

前記複数のメッセージポインタの各々は、周波数情報を含むことを特徴とする請求項 8 に記載の方法。